

# 1 . 流域の自然状況

番匠川は、その源を大分県南海部郡本匠村の三国峠に発し、急峻で屈曲の多い渓谷を流下し、途中久留須川、井崎川等を合わせながら東に流れ、山間部を抜けて、ゆるやかに蛇行して佐伯市に至り、さらに堅田川を合わせて佐伯湾に注ぐ、幹川流路延長 38km、流域面積 464km<sup>2</sup> の一級河川である。

番匠川流域は、大分県南部に位置しており、番匠川と周囲の山々が調和して緑豊かな景観美を造り、またその沿川は豊かな自然環境を有するとともに、良好な水質から清流番匠川として親しまれている。その流域は、大分県南地域における社会、経済、文化の基盤をなすとともに、古くから人々の生活、文化と深い結びつきを持っていることから、人々に多くの恵みを与えており、本水系の治水、利水、環境についての意義は極めて大きい。

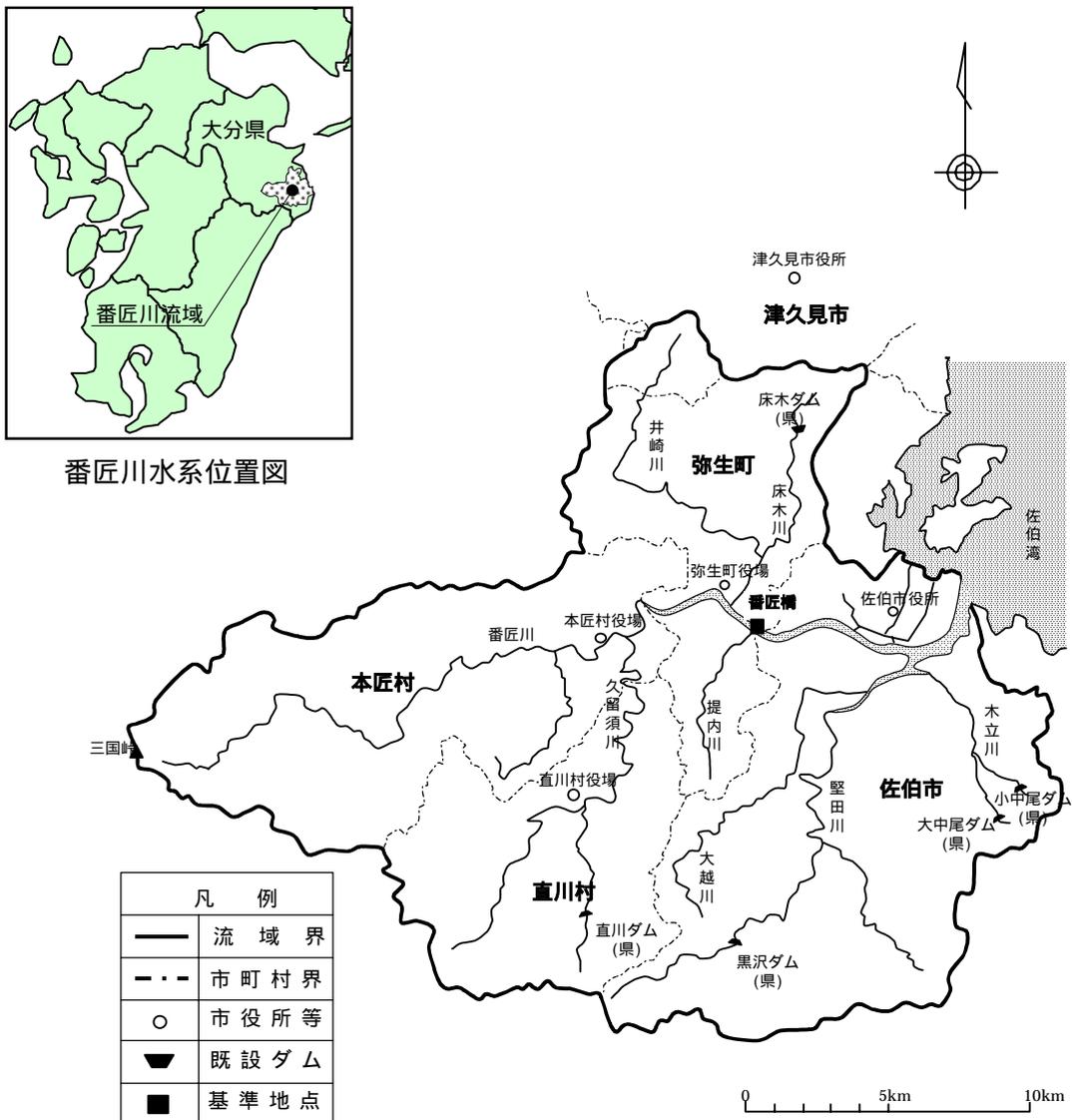


図1 - 1 番匠川水系流域図



上流部  
(直轄上流端付近)



中流部  
(番匠橋付近)



下流部  
(河口付近)

出典：佐伯河川国道事務所

## 1 - 1 地 形

番匠川流域は、東西 30km、南北 25km の全体として三角形の形状をなしている。

流域の地形は、上流部は標高 400～500m の急峻な山が多く、山麓沿いに発達した川は屈曲の多い急勾配の溪谷をなしている。井崎川の上流部は秩父帯の石灰岩地帯で、カルスト地形がみられる。下流部は比較的谷間が開け、番匠橋から下流は川幅が広くなり、河床勾配も緩やかになり、佐伯平野を形成している。

番匠川が注ぐ大分南部の海岸は、陸地の沈降あるいは海面の上昇によって生じたりアス式海岸地形を形成している。

## 1 - 2 地 質

大分県南部は、豊後水道を挟んで四国山地と連続しており、中央構造線の延長として、臼杵～八代構造線と仏像構造線が並行して走っている。番匠川流域は仏像構造線の南に位置し、仏像構造線を挟んで秩父帯に井崎川の上流域、四万十帯に他の流域が入っている。

番匠川流域の地質は、西南日本外帯に属し、流域の北部及び水源地付近は古生層で、主として砂岩、頁岩、粘板岩よりなるが、部分的に石灰岩層が混在し小半地点では鍾乳洞が形成されている。また、流域の中・南部は中生層で、砂岩、頁岩、礫岩から構成される。下流部の河川沿いの平地は沖積層よりなるが、一部に阿蘇熔結凝灰岩が分布し、流域に仏像構造線が走っており、非常に複雑な地質構造となっている。



### 1 - 3 気 候

番匠川流域は、南海型気候区に属しており、大分県内で最も温暖多雨な地域であり、夏の大雨、冬の晴天に特徴がある。

年平均気温は16 前後、年平均降水量は約2,200mmであり、6～9月の梅雨期、台風期に集中している。

また、日本の年平均降水量の約1,700mmと比較すると約500mm多い。

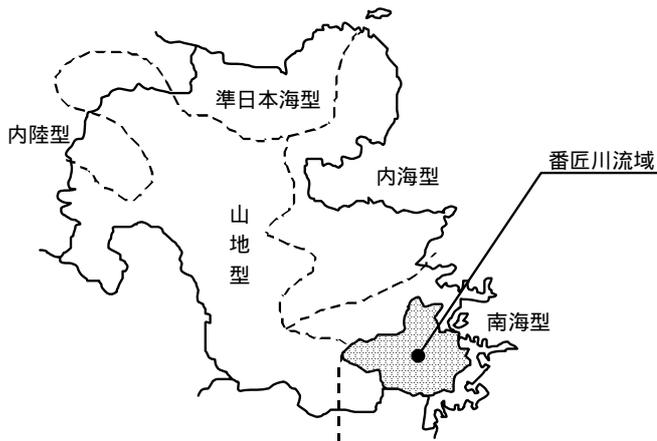
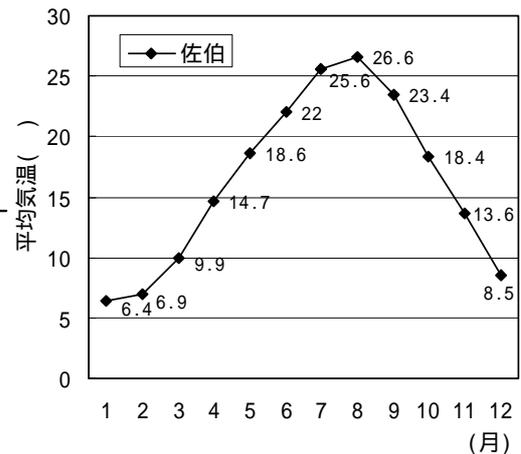
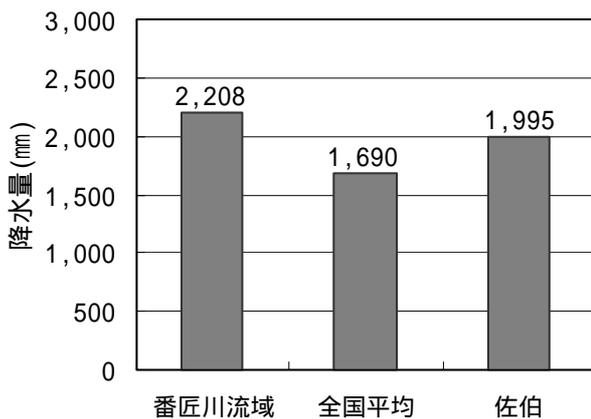


図1 - 3 大分県の気候区分



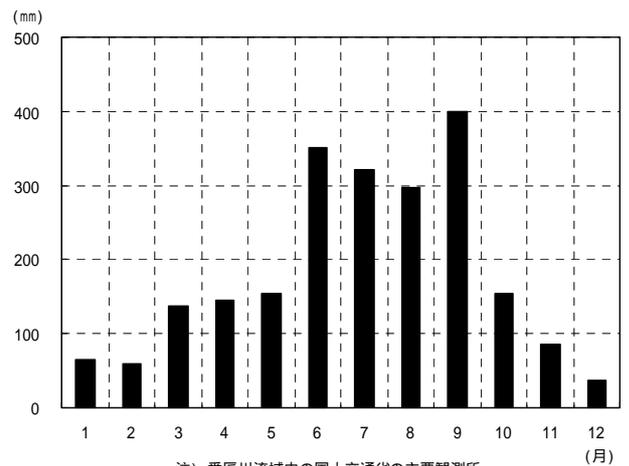
注) 佐伯は気象庁HPよりS54～H12の平均値

図1 - 4 佐伯の月別平均気温



注) 番匠川流域はH4～H13の10ヶ年  
 全国平均は「理科年表」記載の全国主要観測所の平均値(S46～H12)  
 佐伯は気象庁HPよりS54～H12の平均値

図1 - 5 年間降水量の比較



注) 番匠川流域内の国土交通省の主要観測所のティーンセン法による平均値(H4～H13)

図1 - 6 流域平均月別降水量